

山武長生夷隅地域保健医療連携・地域医療構想調整会議 第 2 回山武地域部会 開催結果について

千葉県 健康福祉部 健康福祉政策課 政策室

電話番号：043-223-4307 メール：khseisaku@mz.pref.chiba.lg.jp

山武地域部会の開催概要

会議名

山武長生夷隅地域保健医療連携・地域医療構想調整会議
第2回山武地域部会

開催趣旨

東千葉メディカルセンター(MC)が地域で期待される役割を果たしていくことを目的に、山武地域における医療機能の更なる役割分担の検討を行う。

日時

令和5年11月13日(月) 19時～20時半

場所

山武健康福祉センター 会議室

出席者

- ・ 山武地域内の調整会議委員（病院、医師会、保健所）
- ・ 関係者（市町首長、地元選出県議会議員）
- ・ 地域医療構想アドバイザー 等

議題 (進め方)

- (1)山武地域における医療提供体制の状況等
- (2)公立病院経営強化プラン（案）について

- ① 事務局から、山武地域における医療提供体制の状況等を説明。
- ② 各病院から、公立病院経営強化プラン（案）についてご説明。

出席者からのご意見①

■ 医師の確保について

- 県の役割として、必要な医師の派遣、資金的な支援が重要。一番重要なのは医師の確保である。
- 医師も研修医からベテランまで、様々な勤務条件で働いている。ある程度の報酬を出さなければ専門性を兼ね備えた熟練の医師の確保は難しい。
- 山武地域は医師少数区域であり、また患者の流出が進んでいる状況から、資金的な支援を行う根拠は備わりつつある。

■ 病院経営について

- 東千葉MCの経営における構造的な問題として、予定入院が少なく、救急入院がメインという体制がある。通例、救命救急分の赤字を一般病床の収益で補っている。救急は人の配置が必要で労働効率も悪い。
- 現在の保険制度では、高度医療を行うほど赤字となる。
- 首長は各自治体の病院への繰入（負担）金額を明確に示した方が良い。
- 山武長生夷隅医療圏は、三分の一の患者が圏外に流出しているという問題がある。公立病院の特徴づけを明確にすることで患者の流出を防ぎ、病床稼働率を上げ、経営を改善していくという大きな方向性が示されたといえる。

出席者からのご意見②

■ 医療機関の役割分担と連携について

- 公立4病院の診療実績を見ると、4病院のいずれも消化器系疾患が一番多い一方で、循環器系疾患は非常に少ない。これは医師の有無に左右されると考えられる。このようなアンバランスを是正して欲しい。
- 各病院の特徴づけを進めていけば、病院間の連携が自然と図られていくのではないか。
- 東千葉MCの紹介率は80%を超え、逆紹介率も86%を超えている。これは東千葉MCが救急を含めた急性期病院として、地域において一定の役割を果たしている証拠である。
- 課題解決に向けて、地域医療機関の役割分担を明確にして連携することで、医療資源を効率的・合理的に活用して、持続可能な医療提供体制を構築することが大事。

■ その他

- 入院患者の受療動向について、山武地域だけのデータを抽出して分析する必要がある。
- 県には、各病院や首長等と意見調整を行い、山武地域の医療についての方向性を示してもらいたい。
- 県には、①採算性が悪い救急医療について、新たな支援制度の創設、②山武地域部会の年複数回の開催及びデータの提供をお願いしたい。